

# 社会資本総合整備計画

## 長野駅周辺地区都市再生整備計画

平成23年2月9日

長野県長野市

# 都市再生整備計画(第6回変更)

ながのえきしゅうへん  
長野駅周辺地区

ながのけん ながのし  
長野県 長野市

平成23年2月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	長野県	市町村名	ながのし 長野市	地区名	ながのえきしゅうへんちく 長野駅周辺地区	面積	90.7 ha					
計画期間	平成	18	年度	～	平成	22	年度					
					交付期間	平成	18	年度	～	平成	22	年度

<b>目標</b> 機能性・利便性の高い都市拠点整備、水と緑あふれる都市景観整備により都市の顔となるまちづくりを目指す 土地区画整理事業による安全・快適な都市基盤整備と土地利用の高度化 魅力あふれる商店街の整備と豊かな水・緑空間を活かした歩行者空間の整備による中心市街地の活性化 住民との協働によるまちづくりの推進
---

<b>目標設定の根拠</b> まちづくりの経緯及び現況 <p>本地区は駅東口としての立地条件の良さや都市化のポテンシャルの増大により、急速に無秩序な市街化が進んだが、駅前広場や道路・公園等の公共施設整備の遅れから生活環境の低下や防災上で重大な支障を来しており、このまま放置してはおけない状況にあった。その中、昭和39年から土地区画整理事業手法によるまちづくりの再生を研究し始めた。しかし、一部には同事業に対する根強い反対があり、裁判闘争にも発展したが、近年はそうした人々も含め、より良いまちづくりに向け共に考えていこうとする姿勢に変化してきている。</p> <p>平成10年2月に開催された第18回冬季オリンピックを契機として、市の玄関口、広域交通結節点としての重要性が一層増してきている。一方、全国の多くの都市と同様にモータリゼーションの進行と市街地の郊外への拡大が、中心部の既存商店街の空洞化と住民の高齢化を進行させている。長野市総合計画、長野市都市計画マスタープランにおいて、当地区は長野市の中心市街地における新たな都心拠点として、国際都市「NAGANO」の新たな顔としての市街地再生が位置づけられている。当地区は中心市街地活性化基本計画の区域内に存し、同計画において市の玄関口として市民や来訪者が集い、行き交う交流の拠点として、必要な都市基盤、魅力あふれる文化情報発信の場を形成するとされている。平成5年から始まった土地区画整理事業により、東口駅前周辺で、ホテル・業務ビル等の一部の整備が進んできているが、全体の進捗率はなお1/3程度に留まっており、密集老朽住宅等の残りの区域整備を急ぐ必要がある。一部整備が進んだ商店街では地域住民と商店街組合がタイアップし、夏冬にオリンピック記念イベントを毎年開催し街の活性化にぎわいづくりに市民主導で取り組んでいる。地域住民により、区画整理で生みだされた空地に花畑をつくり、子供からお年寄りまで参加して毎年花植えをしていただいている。</p>
<b>課題</b> <p>地区内の道路は幹線道路でも歩道のない幅員6～7m程度で、多くは4mにも満たない狭小道路であり、災害時に消防車等も駆けつけることのできない道路が多い。駐車場等の低利用地、未利用地が多く存する。既存建物の約9割が木造建物で、かつ築30年以上の老朽住宅がその7割近くを占め、密集している。地域住民の高齢化が市の平均を上回る率で進行しており、若い人々の郊外への流出が進んでいる。</p>
<b>将来ビジョン(中長期)</b> <p>国際都市「NAGANO」の玄関口にふさわしい機能的で、魅力あふれる交流拠点の形成                  長野市総合計画では、長野駅周辺地区は市の玄関口としてまた交通の結節点としてふさわしい機能的で快適な都市機能集積を図る場と位置づけている。                  長野市都市計画マスタープランでは、市のあらたな顔となる都心空間にふさわしい街並み、環境の整備に努め、中心部ににぎわいと都市型利便性居住の確保を図るとしている。</p>

<b>目標を定量化する指標</b>							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
新規住宅着工件数	件	土地区画整理法第76条に基づく住宅建設棟数の累計	安全・快適な都市基盤整備及び土地利用の高度化を評価する指標	0	平成17年度	110	平成22年度
地区内商店街歩行者数	人/日	駅前商店街における一日当たりの歩行者数	街のにぎわい、商店街の活性化を図る指標	3,197	平成17年度	3,100	平成22年度
消防・災害車両活動可能地域率	%	災害時等に消防車等の活動可能な区域(幅6m以上の道路に接する宅地面積)比率	安全・安心な街に向け、最低限の都市基盤整備を図る指標	34	平成17年度	65	平成22年度

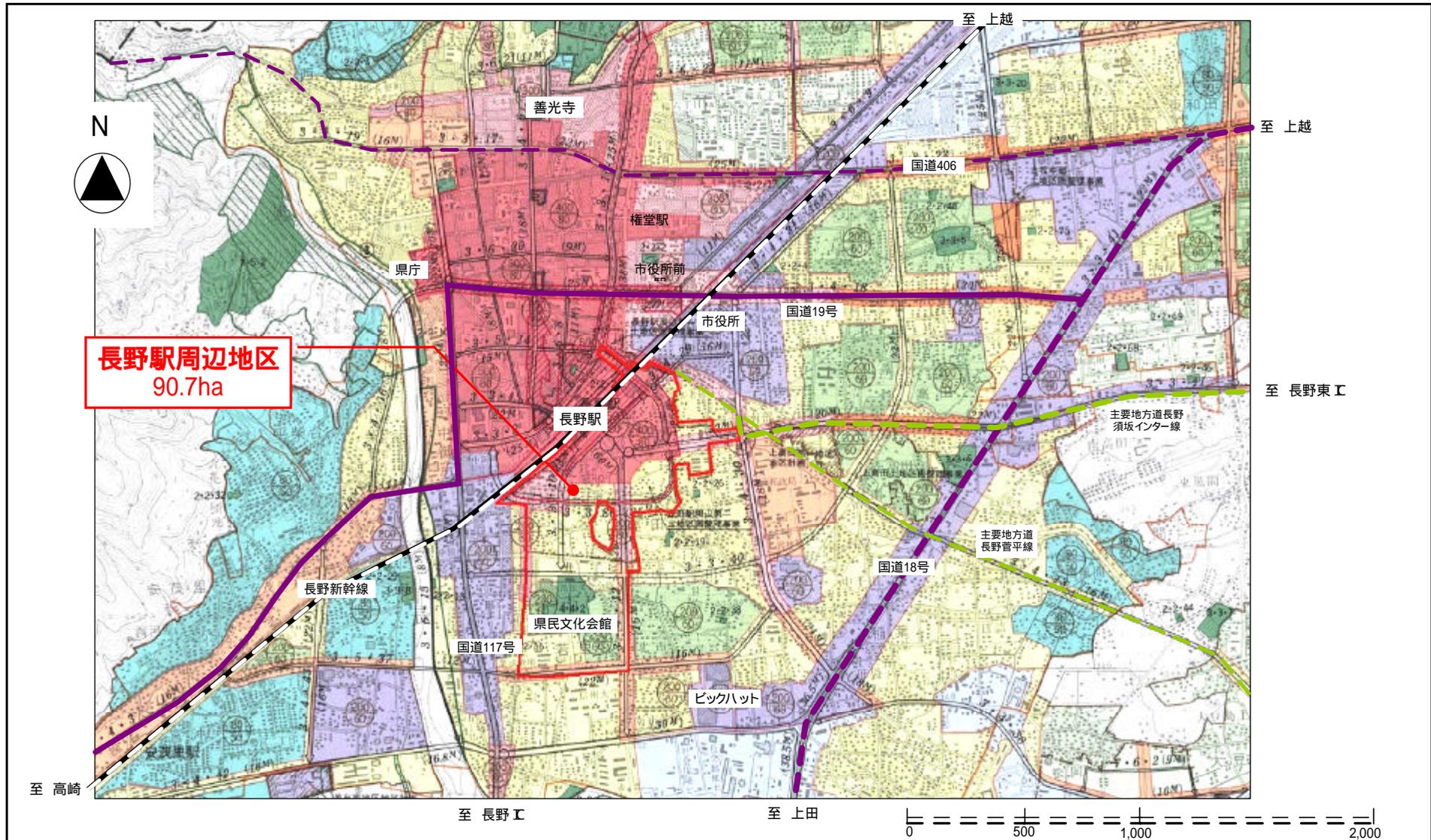
## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>市の玄関口にふさわしい安全 安心な都市基盤、皆ににやさしい都市景観を備えたまちづくり            県都長野市の玄関口、オリンピック開催都市にふさわしい安全 安心な都市基盤を土地区画整理事業により街路、駅前広場、区画道路、公園等の一体的 総合的整備により形成する。            併せて街路 広場等の植栽 街灯 案内板、歩道の高質化、モニュメント等、そして沿線の土地利用の地区計画により、環境にも人にもやさしい都市景観形成を図る。</p>	<p>土地区画整理事業（基幹事業）            公共下水道事業（関連事業） 不良土壌改善事業（提案事業）            土地区画整理事業「街路築造」（関連事業）、長野駅東西自由通路整備事業（関連事業）            送電線地中化事業（提案事業）、ゴミステーション整備（提案事業）</p>
<p>魅力あふれた商店街 水と緑あふれた歩行者空間等のネットワーク化による市街地の活性化            既存商店街通りの歩行者優先道路への高質化や地区内を流れる用水を利用したせせらぎのある歩行者空間整備など、まちなかの歩行者空間を有機的にネットワーク化し、回遊性のまちづくりによる中心市街地の活性化を目指す。</p>	<p>高質空間形成施設（基幹事業）、土地区画整理事業（基幹事業）            従前居住者用住宅建設事業（関連事業）            公共下水道事業（関連事業）</p>
<p>住民との協働によるまちづくりの推進            地域のまちづくりは地域住民が主体的に考え、自らできる部分は自ら動き、まちの維持管理をして永続的にまちづくりを進めていくという仕組み作り、支援を進める。</p>	<p>まちづくりアドバイザー派遣制度（関連事業）            長野駅東口まちづくり活動推進（関連事業）</p>
<p>その他</p>	
<p>住民等による自発的 継続的なまちづくり活動の内容            当地区には長野駅東口まちづくり対策連絡協議会をはじめとして、現在 5つの各種まちづくり協議会が活動している。            地区内を縦断する都市計画道路の変更も含んだ土地利用計画全体を考えるもの            駅前商店街を中心に各種イベント等を実施し、街の活性化を図っているもの            地区内の公開空地、街路の植栽帯、駅前広場等で花壇づくりを通して緑化運動を展開しているもの            地区計画の手法を用い、高さ制限や建物形態などで、良好な住環境保全を計画しているもの            地区内を流れる豊富な用水を活用したせせらぎのある歩道づくりを計画しているもの            等で、土地区画整理事業の進捗に合わせ、積極的なまちづくり提言を頂いている。</p> <p>まちづくりの目標達成に向け次のような情報公開、計画管理を行う            年 4回のまちづくりだよりによる広報誌の全戸配布            毎年度初めに、地区毎の事業説明会の開催            事業進捗、数値目標達成状況の各種調査・モニタリングの実施</p>	



都市再生整備計画の区域

<p>長野駅周辺地区 (長野県長野市)</p>	<p>面積 90.7 ha</p>	<p>区域 長野市大字鶴賀、大字栗田、中御所二丁目、若里一丁目の各一部</p>
-------------------------	-------------------	---



# 長野駅周辺地区(長野県長野市) 整備方針概要図

目標	機能性・利便性の高い都市拠点、水と緑あふれる都市景観を併せ持つ新たな都市の顔となるまちづくり	代表的な指標	新規住宅着工件数 (件)	0 (17年度) → 110 (22年度)
			地区内商店街歩行者数 (人/日)	3,197 (17年度) → 3,100 (22年度)
			消防車両活動可能地域率 (%)	34 (17年度) → 65 (22年度)

